

嘉手納沖大型魚礁調査

1. 調査の概要

(1) 調査年月日

第1次 昭和50年3月13日～14日

第2次 昭和51年8月30日～31日

(2) 調査方法

設置状況調査……………レーダー、六分儀、山立ておよび魚群探知機で魚礁設置場所を確認の上ブイを投入しそのブイを中心に16方位に毎分150mの速さで航走し魚探により調査した。

漁獲試験……………底延縄で朝縄(3/13、8/30)夕縄(3/14、8/31)で操業した。操業方法は魚礁を中心にS字型に延縄した。その結果は1表のとおりである。

(3) 調査機器類

レーダー

六分儀

魚群探知機……………光電製作所 SR-660 TYPE 12

底延縄……………1鉢(釣針100本付け 21～23号 枝間4m)

(4) 調査船舶

くろしお(21.44トンD100馬力)比嘉幸一船長以下7人乗組み

2. 調査の結果

1図で魚礁位置と山立て図、2図で魚礁配置形態模式図、3図で主要断面図(魚探記録)、1表で魚獲試験結果を示した。

(1) 設置場所及び山立て方法

a 設置場所……………比謝川口右岸から真方位240°2浬

lat 26°-20' - 48" N long 127°-42' - 54" E

b 山立て方法……………① 牧港発電所煙突と残波岬の先端を結んだ線

② 読谷米軍通信隊のゲート坂道が正常な状態

(2) 設置時期 昭和47年度

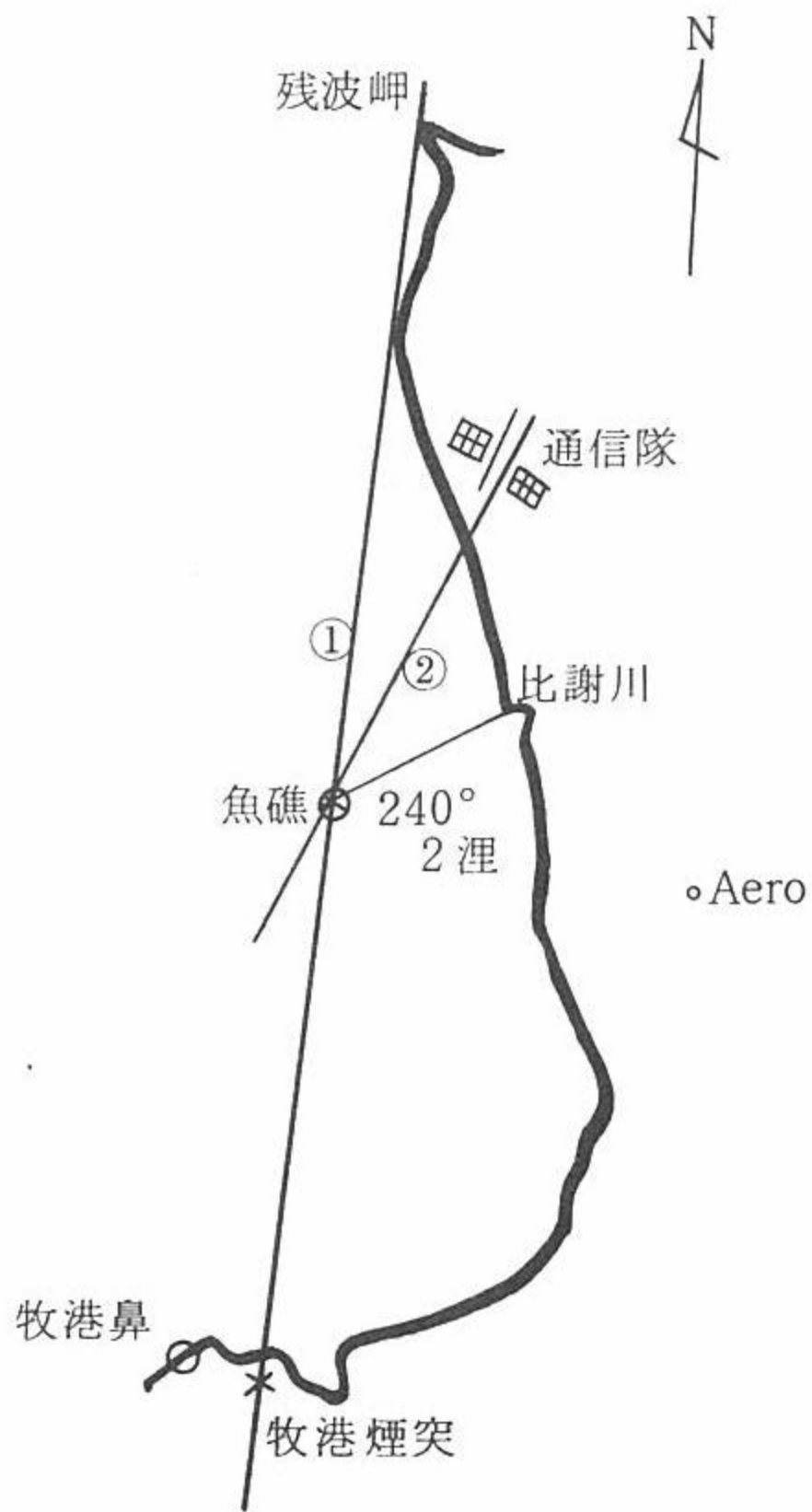
(3) 設置個数 コンクリートブロック1.5m角 1,591個

(4) 設置形態 長さ約550mで大体南北に長い幅は150m～300mで1、2段積みで広くひろがっている。

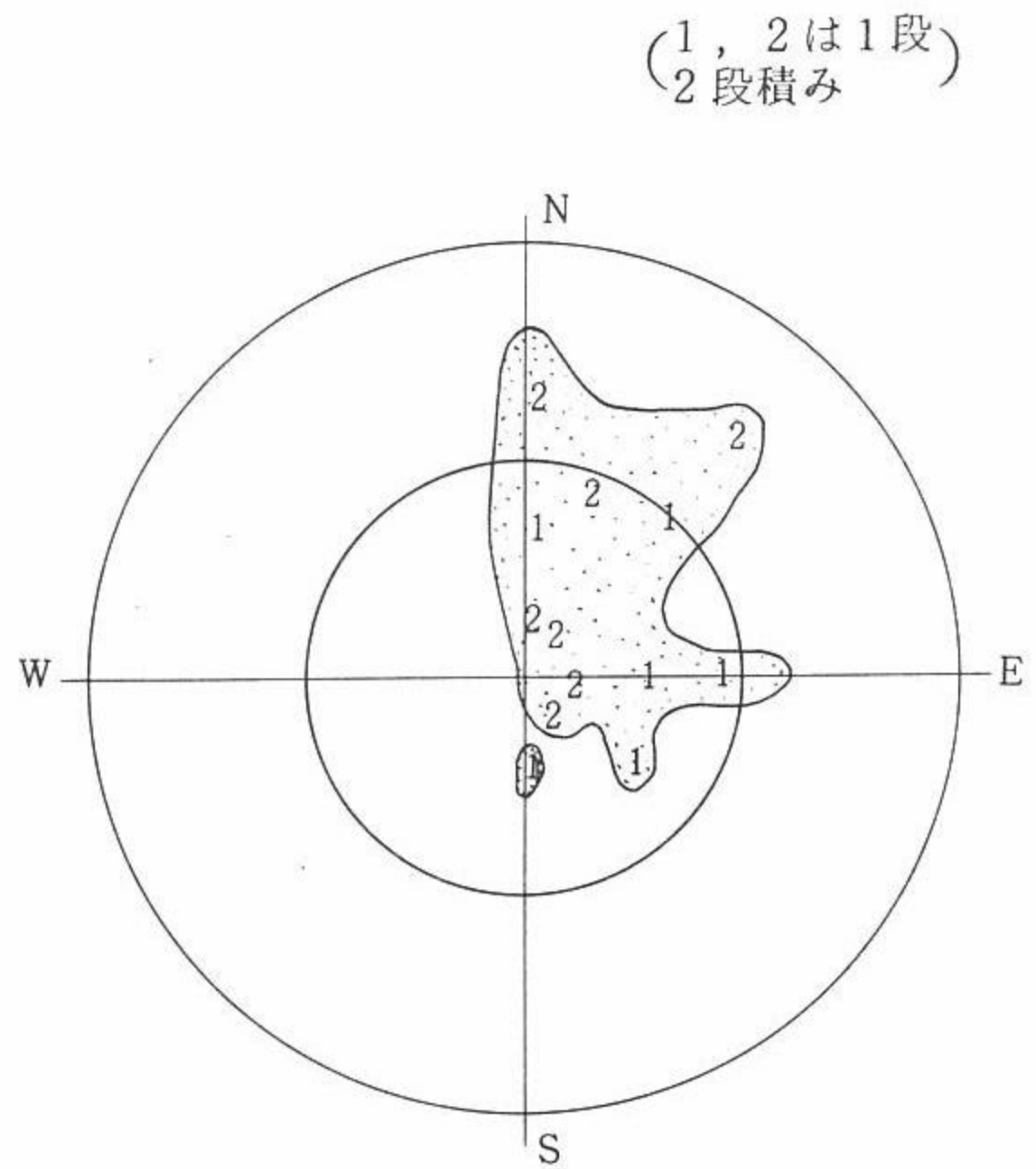
(5) 漁獲試験 ハマフエフキ、アマミフエフキ主体に4回操業で15種41尾108,630g(内、フエフキダイ類17尾32,450g、フエダイ類9尾11,100g、ハタ類8尾23,660g、その他7尾41,420g)釣獲率は5%～18%である。

ハマフエフキは49.5cm～61.0cmで胃内容物はシャコ、二枚貝、カニ、魚類骨片がみられる。

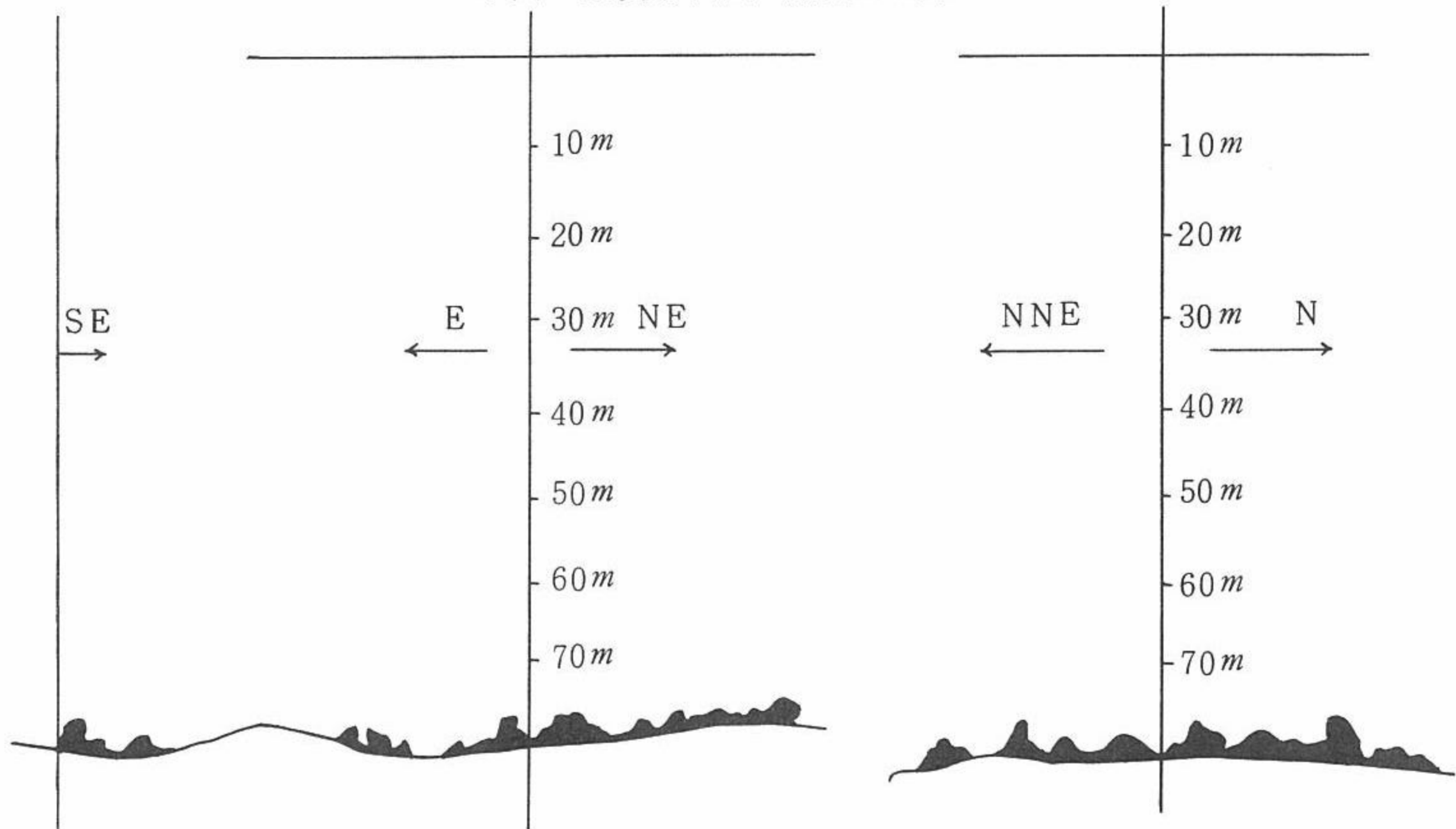
1 図 魚礁位置と山立て図



2 図 魚礁配置形態模式図



3 図 主要断面図 (魚探記録)



1 表 漁獲試験結果

人 工 魚 礁					天然礁 (水深 53 m)	
調査年月日	50. 3. 13	50. 3. 14	51. 8. 30	51. 8. 31	"	
調査船舶	「くろしお」	"	"	"	"	
調査員	久貝一成	"	"	"	"	
調査回数	1	"	"	"	"	
調査漁具	底延縄 釣針 100本	"	"	"	"	
釣獲率	12%	18%	5%	6%	3%	
漁獲量	30,130 g	60,910 g	4,330 g	13,260 g	2,580 g	
尾数	12	18	5	6	3	
漁 獲 物	ハマフエフキ	5 (12,090 g)	4 (10,740 g)		2 (5,900 g)	1 (2,000 g)
	マダラヒメダイ	2 (1,130 g)				
	タテフエダイ	1 (340 g)		3 (1,060 g)		
	カンモンハタ	1 (2,560 g)	3 (7,350 g)			
	ウツボ	2 (13,600 g)				
	ゴマフエダイ		2 (6,350 g)		1 (2,950 g)	
	マハタ		1 (6,800 g)			
	アカハナ		1 (2,450 g)	1 (2,600 g)		
	タイワンダイ	1 (410 g)				
	アマミフエフキ		6 (3,720 g)			
	マダラトビエイ		1 (23,500 g)			
	ニセクロホシ フエダイ			1 (670 g)		
	ヒラアジ				1 (2,200 g)	
	オオモンハタ				1 (1,900 g)	1 (180 g)
	ヒメジ				1 (310 g)	1 (400 g)
シロブチハタ						